

鳴門やけん

～鳴門で働く人といっしょに～「鳴門再発見」物語



渦を見よう
「渦の道」から
世界へ発信
泡の世界で見つけた！
最前線で渦を体感！

鳴門の渦の
おはなし。

渦を知ろう
こうして「渦」は
生まれる！

大鳴門橋の今と未来
メンテナンスと
技術開発で
200年安心安全の
大鳴門橋を目指す

百年の時をかけて
夢が現実
「鳴門の渦潮」を
世界遺産に！
浮世絵に描かれた
春の渦

親子三代で
鯛の一本釣り
卒業記念植樹で
鳴門公園の
緑を守る

鳴門公園には
楽しみがいっぱい！

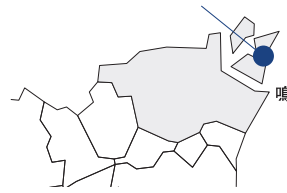
vol
6



おかげさま。

鳴門の渦潮を通じて
多くの人が関わり合い
助け合いながら、つながっています。
今回も、たくさんの方に
ご協力いただきました。

今回の舞台は
鳴門町



Free
0円



企画・編集／「鳴門やけん」編集委員会
発行／2018年3月
鳴門市企画総務部戦略企画課
徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜170
電話 088-684-1713

制作／株式会社鳴門広告社 写真／小川直樹

バックナンバー



vol.1 なんと金時 vol.2 大谷焼 vol.3 れんこん vol.4 鳴門わかめ vol.5 鳴門の塩



渦を見よう

『渦の道』から 世界へ発信。

『渦の道』で出来ること。

昭和60(1985)年、6月に大鳴門橋が開通。その後、鉄道として利用する予定だった橋の下部分を有効活用するため、平成12(2000)年、徳島県立の観光施設として、『渦の道』がオープンしました。

全長450メートルの遊歩道は壁のほとんどの部分が吹き通しになっており、間近にむきだしの橋の構造が観察できるようになっていて、風速20メートルくらいの風を体感できる時もあります。遊歩道の先端にある展望室からは淡路島や紀伊水道などの



つぎつぎと
渦が巻いて、
のぞきこんだら
吸い込まれそう!

大きな渦を
見たい人は潮見表を
調べてきてね。



海上45メートル。
渦の真上で
記念撮影です。

景色を楽しむことができ、ガラス床からは真下に渦を見ることができます。

「展望室の広場では、阿波踊りのイベントなどを開催しています。渦が見えない季節に、いかにお客さんに満足してもらえるかが大事なんです」と館長の森本真さん。海上45メートル、全長450メートルという施設の特徴を生かした参加体験型のイベントを考えているそうです。「遊歩道を利用して

チーズ転がし大会や、お客さん

を乗せて人力車をひっぱるとか。渦が見えるガラス面でカルタ取り大会、バーチャルリアリティを使ったバンジージャンプも面白いでしょ」と遊び心のあるアイデアを熱心に語ってくれました。

世界の国からようこそ。

『渦の道』には、毎年、50万人以上の観光客が訪れているそ

うです。その中でも近年は、外

国人観光客の割合が多くなっています。『渦の道』のある鳴門公園は、瀬戸内海国立公園の二部でもあります。「海外の方は、鳴門公園の自然そのものも楽しまれています。東アジア圏の方は、空の青さや道端の花、野鳥の声にも感動していますよ」と森本館長。

今後は欧米圏の方にもたくさん来てもらえるよう、力を入れていきたいそうです。「欧米

圏ではお遍路文化も知られはじめ、関心をもっている方も増えています。ゆったりした自然を体感するという観光の仕方が、欧米圏の方に合っているのではないのでしょうか」とその理由を話してくれました。今後、四国の玄関口として『渦の道』から徳島の情報をどんどん発信していくそうです。多くの観光客に来てもらうことで、渦の魅力の世界に広がっていきたくと森本館長は願っています。

泡の世界で見つけた！

うずしお観潮船は、昭和49（1974）年3月から営業をはじめました。現在、大型観潮船『わんだー』と水中展望室のある高速小型船『アクアエディ』の2隻を運航。年間20万人弱の観光客が訪れ渦を楽しんでいます。

小型水中観潮船を導入したきっかけは、単純に渦の中に入って見たらどうなるんだろうという皆さんの声。そこで、高度な船の設計力や技術力を合わせ、高速で走れる水中観光船が開発されました。日本で高速水中観光船が就航しているのは数ヶ所しかありません。

出港後、時速35キロから40キロ

で沖に出て、3分程で渦のボイントに到着します。上から見れば渦の位置はわかりませんが、海中ではどこに渦があるか分かりにくいそうです。3層構造になったアクアエディの一番下の部分が水中展望室になっています。展望室から海中を覗くと、泡の中にと

ます。19歳で船舶免許を取得した若山翔太さんは、アクアエディを操船して5年目。「短い距離の間で、水深が浅い所と100メートル近い所があります。潮の流れや風向きなどは毎回違うので、それに合わせてコースを変えています」とやりがいを感じている様子。30年の経験を持つベテラン船長の黒田智士さんは「危ない所に入っていくので安全に注意し、いつも緊張感を持って運転しています」と鳴門海峡が危険な海域であることを強調。あらためて渦潮が自然の一部であること

を実感しました。

アクアエディで
海中にできる
渦の芯を
ぜひ見てください。



鳴門観光汽船代表取締役の
若山信幸さん

大鳴門橋と
迫力ある渦が間近で
見えますよ。



アクアエディの操船もこなす若山翔太さん

取材協力／鳴門観光汽船株式会社
鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛264-1 電話 088-687-0101
営／8:00～17:00（最終便 わんだーになると16:20出航 アクアエディ16:15出航）
休／無休 料／わんだーになると 大人1,800円 小学生900円
アクアエディ（要予約） 大人2,400円 小学生1,200円

大型貨物船の船長経験もある黒田智士さん

渦に接近する操船は
難しいけど
やりがいがあります。



最前線で渦を体感！

「うちはうずしお最前線を売りにしています」とうずしお汽船の吉田元保取締役。その言葉どおり高速うずしお観潮船うずしお号では、しぶきがかかるほど間近で渦が見えます。大鳴門橋の建設に携わり、完成してからは橋を渡ってくるお客さんに渦を見せようと30年前から営業をはじめたそうです。売店兼待合所には、渦の写真を展示したギャラリーや鯛が泳ぐ水槽があります。

船は朝8時から30分おきに出港。予約なしで乗船できるので、最近では渦の見え方を大・中・小のマークで知らせた「うずしおワクワク度」（HPに掲載）を見て、お

客さんが来てくれるそうです。

港から3分ほどで渦の見える場所に到着。潮の満ち引きやその日の気象・海象を考慮して、毎回最善の観潮コースを選んでいます。「大まかに言うところから夏は引き潮時、秋から冬は満ち潮時の季節風がいいんです」と吉田取締役。冬の朝の満ち潮のときには、朝陽で真っ白に映えた橋と渦の共演がみられるそうです。

お客様の要望で安全が確認できれば、渦が巻いている中へ船を進めるそうです。でも危険なのでプレジャーボートや水上バイクは絶対にしないでくださいと念押しされました。乗り場は大

塚国際美術館のすぐ傍にあり、

渦の見える時間に美術館を抜け出して観潮船に乗り、再入館することもできます。最近では海外からのお客様も多いそうです。「カタコトの英語と身振り手振り、汗だくになりながらコミュニケーションをとっています」と吉田取締役。そして「渦は、鳴門山の展望台から見渡したり、海上45mの高さの渦の道から覗いたり、しぶきがかかるほどの最前線の観潮船に乗って体感したりといろんな楽しみ方があります」と渦の魅力を熱く語ってくれました。

お客さんに
喜んでもらえるのが
嬉しいですね。



最前線で渦潮を
見てください！
お待ちしております。

お客さまの安全を見守る
芝原心さん

毎回、
緊張しながら
操船しています。



安全第一でうずしお号を操船する吉田元大さん

取材協力／株式会社うずしお汽船
鳴門市鳴門町土佐泊浦字福池65-63 電話 088-687-0613
営／8:00～17:00（最終便 16:30出航） 休／無休
料／大人1,550円 小学生780円

渦の魅力と危なさをよく知るうずしお汽船取締役の吉田元保さん

渦を知ろう

こうして

「渦」は生まれる！

鳴門海峡の特徴。

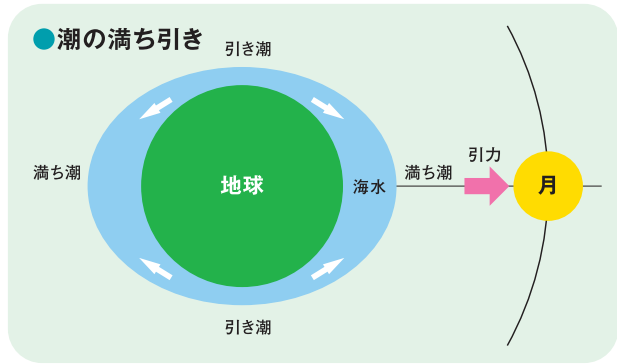
イタリアのメッシーナ海峡、アメリカのセイモア海峡と並び「世界三大潮流」の一つにも数えられる鳴門海峡。大鳴門橋の真下は幅が約1.3kmと狭く、海底の地形は断面がV字型に落ち込み最深部は約90mもあります。そのため海峡を流れる海水の速度が速く、潮流の時速が20kmに達することもあります。

鳴門海峡に渦が発生する仕組み。

渦が生まれる原因の一つに海水の流れがあります。月と太陽の引力によって起こる潮の満ち引きです。海水が引き寄せられ海面が高くなった状態を満ち



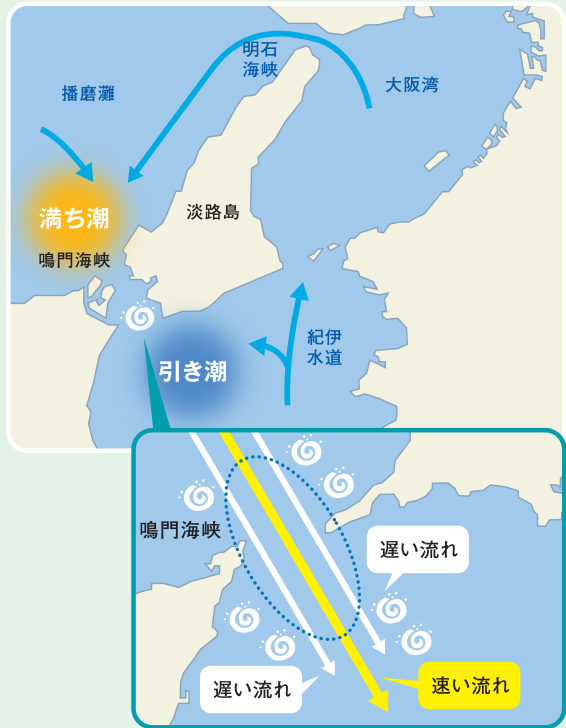
潮、逆に海面が低くなった状態を引き潮と呼びます。地球は自転しているため二日に満ち潮と引き潮は交互に約6時間周期で繰り返されます。



太平洋側が満ち潮になると紀伊水道へ海水が流れ込みます。鳴門海峡が狭いため、流れ込んだ海水のほとんどが大阪湾に向かいます。その大量の海水は明石海峡を抜け、播磨灘（はりまなだ）に向かい、播磨灘はおよそ5時間遅れで満ち潮になります。その頃には、紀伊水道側は

3月の上旬には『渦開き』が行われ、迫力のある渦を見ようと多くの観光客が訪れます。

●海水の動き



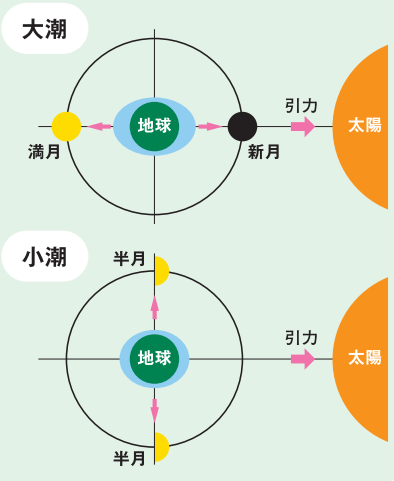
引き潮に変化しています。こうして鳴門海峡を挟んで満ち潮と引き潮が隣合わせになり、海面に高低差が出来ます。海面の高い満ち潮側から低い引き潮側に激しい勢いで海水が鳴門海峡に流れ込みます。その時、中央部を流れる速い流れと、その両側の遅い流れとの速度差で回転力が生まれ、渦が発生します。

大迫力の渦。

1カ月に2回、もっとも海面の高低差が大きくなる大潮とい

う時期があります。大潮は地球と月と太陽が一直線に並び、地球上の海水が月と太陽の両方の引力に引つ張られる時です。それが日中に起こる満ち潮や引き潮の時間と重なったときに大きな渦ができます。特に春と秋は月の引力や潮流の速さ、風向きや温度などの条件がそろいやすいそうです。

●大潮と小潮



参加体験型のうずしおミュージアムで渦と橋の魅力を体感しよう。

大鳴門橋 架橋記念館エディ

「夢の架け橋」と呼ばれた大鳴門橋が完成したのは、昭和60（1985）年。同時にその橋の意義を後世に伝えるために、大鳴門橋架橋記念館ができました。日本屈指の航海の難所として昔から知られてきた鳴門海峡にどのように橋を架けたのか、橋の構造や技術的なことだけでなく、渦潮のすごさが体感できるような展示がされています。平成30（2018）年3月には、もっと興味・関心をもって見てもらいたいという思いから、展示ブースをリニューアル。デジタルアートを使った「Play the Eddy」のほか270インチのハイビジョン映像や迫力満点の空飛ぶ潜水艦「うず丸」など、子どもから大人まで、体験しながら渦の魅力があげえます。



壁にふれると渦ができる“うずタッチ”や声を出すとモニュメントが輝く“音でつくる光の渦”



床面に現われる漂流物にふれると、徳島の文化・歴史・自然の紹介画面に変わる“豆知識の海”



大鳴門橋の今と未来

メンテナンスと 技術開発で、 200年、 安心安全の 大鳴門橋を目指す。

大切な橋をいつも
しっかり
点検しています。



海に架かる長大な橋を 守り維持していく仕事。

写真の人は、どこにいても、思いますが。眼下は雄大な渦潮です。そう、いつも私たちが眺め、通っている大鳴門橋の、大きく山型を描くケーブルの頂上近くです。

橋を支える主塔は高さ144m。橋の長さは1629m。ケーブルや橋を吊るハンガーロープの錆びなどを、目視で点検しているので

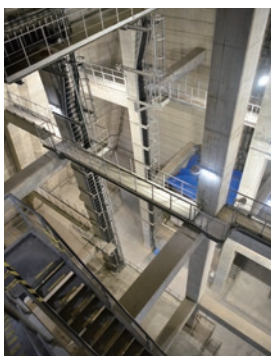
す。昭和60（1985）年の完成から33年。橋を維持する使命のもと、さまざまな技術開発とメンテナンスが常に行われています。

「鳴門海峡は非常に風が強く、海水の塩分が吹きつけます。橋は主に鉄でできているので、塗料が劣化して錆びが生じる。錆びを早期に見し、塗装をやり直す。その作業を日々続けています」と、橋を管理する本州四国連絡高速道路株式会社（以下、本四高速）の宮川洋一さんが説明してくれました。

ケーブル内に 乾燥した空気を送り 錆びを防ぐ システムを開発。

大鳴門橋は渦の発生をできる限りやまさないよう、橋を支える主塔は多柱基礎という特殊な構造になっています。ひとつの巨大なコンクリート基礎ではなく、幾本もの柱があり、その間を潮が流れるように設計されています。柱は、常に海

アンカレイジの内部。外観は巨大なコンクリートのかたまりに見えますが、送気用機械などが設置されています。鳴門側と淡路島側にあります。



本四高速が開発したケーブル内に乾燥した空気を送る「ケーブル送気システム」は国内外の橋にも採用されています。

水に浸かっている「海中部」、潮の干満で海面から出たり沈んだりする「干満帯部」、海面から出ている「飛沫帯部」の3つに分かれ、管理や補修方法も全く違ってきます。

実は今回の取材は2度目の挑戦。1度目は天候が悪く延期になり、そしてこの日は快

晴。主塔の中に設置されたエレベーターに乗り頂上へ。橋梁維持課の金澤高宏さんが、安全対策のロープをかけケーブル上を歩き始めました。取材班はもちろん初めての経験で、「足がすくむ」とはまさにこのこと！

吊り橋の命であるケーブルを錆びから守るために、本四高速ではケーブルの中に乾燥した空気を送り錆びの進行を防ぐシステムを開発。「表面の錆びの点検だけでなく、ケーブルに設置された送気カパーなどの状態もきめ細かく点検していきます」と金澤さん。

次に案内されたのは、橋の根元ともいえる陸地にあるアンカレイジ。ビルでいえば15階建てほどの高さがあり、その広大な内部ではケーブルに乾燥した空気を送る機械が稼働していました。

悪くなる前に対策を打つ 予防保全を徹底。

「我が社は、大鳴門橋や明石海峡大橋なども含め、200年、橋を維持しようという目標

を掲げています。そのためには、予防保全です。悪くなる前に対策を打つ。点検、データの集積・管理、補修対策や劣化予測、その評価検証などを行っています」と宮川さん。

今日も大鳴門橋は雄大な渦潮の上に美しい景観をつくり、人、物を運ぶライフラインとして機能しています。それは多くの人の高度で地道な仕事の積み重ねがあつてこそだと、改めて感じました。



本州と四国をつなぐ橋を守る。
私たちの使命です。



百年の時をかけて、 夢が現実にな。

四国と本州を 橋でつなぐ。 先人たちの 架橋への挑戦。

かつて「夢の架け橋」と呼ばれた時代がありました。本州と四国に橋を架ける構想の始まりは、今から100年以上前にさかのぼります。大正3（1914）年、上板町出身の代議士、中川虎之助が当時の帝国議会に建議を提案しましたが、否決されます。昭和15（1940）年、徳島県の代議士、紅露昭らが本四連絡鉄道の必要性を訴えますが、第二次世界大戦の激化で立ち消えとなりました。そして昭和20（1945）年、原口忠次郎（後の神戸市長）が初めて大鳴門橋の設計図をつくり、2つの海峡に橋を架け、徳島と神戸を2時間で結ぶ大構想を発表しますが、やはり戦争の壁の前に消滅していきます。

渦潮という 大自然を守りつつ、 高度な技術を結集。

前例のない海上の巨大プロジェクトは、自然・景観・住民の生活に大きな影響を与えます。特に大鳴門橋は、渦潮という大自然を守るため、また、名勝としての国の文化財であったため、さまざまな調整が必要でした。耐風・耐震構造を含めた特殊工法や材料の研究開発なども同時進行。道路鉄道併用橋として、高度な架橋技術が集結されていきます。

昭和45（1970）年7月、



昭和51（1976）年、鳴門公園千畳敷で行われた起工式。



淡路島側から見た、橋の架かる前の鳴門海峡。古来海の難所と言われ、渦潮に加え岩礁も多く、困難な工事に人々が挑戦しました。



完成したアンカレイジ。（吊り橋のメインロープを地盤にしっかり固定させるための巨大なコンクリートブロック）

ようやく着工が決定しましたが、起工式間近にオイルショックが起こり、事業は中止。解除までに2年近く待たなければなりませんでした。さまざまな難題をクリアしながら、昭和51（1976）年7月、大鳴門橋の起工式が行われました。工事は8年11カ月の歳月をかけて完成。昭和60（1985）年6月、開通式が淡路島南インターチェンジで挙行されました。中央径間（主塔と主塔の間）876mの吊り橋は当時、東洋一の長さを誇り、橋による地域への効果は、安定した交通ルートの確保



渦潮の発生に影響を及ぼさないよう、主塔を支える基礎は、海中深く何本もの柱を立てる多柱基礎という特別な工法を開発。海中にある鋼管は電気の流れて腐食を防止しています。

上／主塔をつくるための作業。地上で組み立てた塔頂クレーンを仮設したところ。クレーンの能力は20トンで2基ずつ設置されました。
下／ハンガーロープを吊したケーブル前期工事完了時の全景。吊り橋の外観がイメージできます。

取材協力・工事記録写真提供／
本州四国連絡高速道路株式会社
鳴門管理センター
鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛18
電話 088-687-2166（代表）

『鳴門の渦潮』を 世界遺産に！



世界遺産は、国や民族をこえ、人類が大切に未来へ受けついでいくべき財産です。歴史的価値のあるモニュメントや建物、遺跡などの「文化遺産」、地形・地質、生態系や自然景観などの「自然遺産」、両方を兼ねそなえた「複合遺産」の3種類があります。

世界でも最大級の鳴門海峡の渦潮を「自然遺産」にしようという動きが平成10（1998）年ごろから起こり、徳島県と兵庫県の行政機関や民間団体などが一体となり、世界遺産登録に向けた取り組みが始まりました。現在は、兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会を発足し、兵庫県が自然分野、徳島県が文化分野での学術調査を実施しています。

平成30（2018）年3月にはシンポジウムを開催し、国内外の類似する遺産との比較や自然遺産としての価値の証明に向けて、意見を交わしました。今後も、自然景観としての価値だけでなく、歴史や文化・芸術・観光・産業などあらゆる方向から「鳴門の渦潮」の価値を考えてみる必要があります。

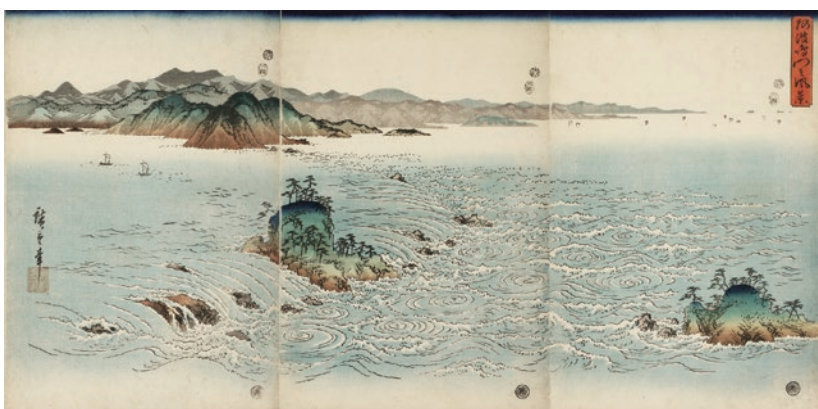


PRポスター

浮世絵に描かれた春の渦。

江戸時代の浮世絵師、歌川広重（うたがわひろしげ）が晩年に描いた『阿波鳴門之風景』が鳴門教育大学にあります。遠くの淡路島はうすく暗い色で、手前の鳴門海峡は明るいブルーで、渦と白波を花のように描いています。それもそのはず、この絵は三部作『雪月花』の『花』にあたります。鳴門の渦潮が名所として知られるようになったのは、江戸時代中期から後期にかけてです。全国を旅し、めずらしい風景を書き写す絵師も現れました。浮世絵研究の第一人者、大久保純一氏の研究によると、広重はその当時に描かれた渦の絵「阿波鳴門」（淵上旭江作）を元にしたのではないかとされています。

『雪』は信州木曾（長野）の冬山、『月』は金沢八景（神奈川）の海に浮かぶ満月を、いずれも遠くから眺めたように描いています。風景として花に見えるものは何か？と考えたとき、広重は鳴門の渦を『花』に見立てて描くことを思いついたのではないのでしょうか。



阿波鳴門之風景（歌川広重、1857年、鳴門教育大学所蔵）



卒業記念植樹で 鳴門公園の 緑を守る。

春一番が吹いた翌日、鳴門公園に桑島小学校の6年生34人を乗せたバスがやってきました。3年生の秋に、同じ公園内でウバメガシのどんぐりを拾い、学校に持ち帰って大切に育てていました。3年後、30センチほどに成長した苗木を、再び鳴門山の裸地に卒業記念として植えています。こうした取り組みは平成8（1996）年から毎年行われており、桑島小学校の伝統行事にもなっています。

きっかけは、鳴門公園の自然保護でした。その頃、公園内に生えていたクロマツがマツクイムシの被害でほぼ全滅。植樹をすることになり、当時、理科の授業に力をいれていた桑島小学校の子どもたちに手伝ってもらうことになりました。

国立公園内にある鳴門公園は、生態系を変えることができ



日当たりのいい所に苗木を植えています。

ません。そのため、以前に桑島小学校で理科を教えていた木下会長に何を植えたらいいか相談したところ、ウバメガシの苗木を植えるのがいいのではないかということになりました。ウバメガシは、このあたりに自生している植物で、風雨に強く、ゆつくりと成長します。ウバメガシに水をやる

のは、植樹のとき一回きりです。それでも、よほどのことがない限り枯れないそうです。「長い人生の中で、くじけそうになったときには、自分の苗がどんなに成長しているかを、ここに見に来てください」と木下会長は、卒業していく子どもたちにエールを送っていました。また、あわせて子どもたちのためになることをしようと専門家の市原さんにも来ていただき、虫や野鳥などの生き物の観察も行いました。

こうした活動が評価され、桑島小学校は平成26年度に環境大臣表彰を受けました。自然公園財団の井上所長は、「鳴門公園の自然保護と子どもたちの思い出づくりを兼ねて、これからも植樹を続けていきたい」と話してくれました。



捕まえた虫の足を
数えてみると
その数によって何の虫か
判断できるんだよ。



植物研究会会長の木下覺さん



最後に水をかけてあげました。



自然観察指導員の市原真一さん



親子三代で 鯛の一本釣り。

日の出の時間までに海にでて釣ってきた魚を漁港の生簀に丁寧に移していきます。

西上大貴さんは、親子三代にわたり鳴門海峡で漁師をしています。京都の大学で建築を勉強していましたが、漁師の仕事を一度経験してみたいと、コース変更して2年で卒業し帰郷。父からは「やり方は見て覚えろ」と言われ、最初は怒られてばかりでしたが、やればやるほど上達していくのがわかったそうです。まったく釣れなかったとき、こんな悔しい思いはサラリ

変化する
自然に対応できる
力が必要です。



わかめの繁忙期以外は、毎日、漁に出るという西上大貴さん。

マンでは経験できないと考え、就職活動でお世話になった先生に「釣りに、はまっつしようたんで鳴門に残ります」と漁師宣言をしました。

鯛の一本釣りは、餌になるイカナゴがいれば3月中頃から釣れます。3月、4月の産卵期の鯛は桜鯛と呼ばれ、北上して卵を産みます。鳴門海峡をとり太平洋側に戻ってくる時が一番よく釣れるそうです。渦の周辺は餌が豊富にあり、鯛だけでなく一年中、アジやサバ、ブリなども釣れます。「もみじ鯛と言って、秋口もおいしいんです」と西上さん。身が引き締まり、歯ごたえがあります。

鳴門鯛には、骨の一部にコブができていて個体があり、地元では「骨折鯛」とも呼ばれています。鳴門海峡の荒波を泳いでい

るためコブができるのではないかとされています。他にも餌をよく見つけられるように大きな目をしていたり、よく泳げるようにと大きな尾びれがついていたりといった特徴があります。

一本釣りとは、腕一本で釣るという意味だそうです。手ぐすに鉤（おもり）を均等につけて釣り

ます。竿は使いません。針を6個、7個つけると、多ければ鯛が5匹、6匹釣れる場合があります。そんなときでも、腕と指の力だけで引き上げるので体力が必要です。

漁師になつて7年の西上さんですが、ひとりで漁に出るようになったのは2年ほど前から。危険な鳴門海峡で、潮の流れや風の向き、さらに漁獲高の向上を考えて漁をすることは難しいけれど、辞められないおもしろさがあるそうです。親子代々が受け継ぐ漁場、そして釣り方があります。「漁師仲間がたくさんいるので競争し合っています。でも、僕らの子どもや孫の代になつたら、競争相手がおらんかもしれない心配です」と西上さん。若い漁師が増えるよう漁協の人とも連携し、漁業はもちろん、地域の活動を盛り上げています。



天然の鳴門鯛は
大きな眼と立派な尾びれ
美しい桜色を
しています。



鳴門町漁業協同組合の福池邦彦さん

鳴門公園には
楽しみがいっぱい!

鳴門公園には大鳴門橋下の遊歩道や鳴門海峡を見渡せる展望台、美術館や記念館があります。観潮船に乗って渦を間近に見ることも出来ます。でも、忘れてはいけないのが「食事」と「お土産」処。鳴門鯛や鳴門わかめを使った料理のほか、鳴ちゆるうどんを味わえるお店があります。お土産もいっぱい並んでいますが、何よりうれしいのはお店の人の笑顔！観光だけでなくお店巡りも楽しい鳴門公園です。



おがた商店

電話 088-687-0528 [年中無休]
営/9:00~17:00



郷土料理 潮風

電話 088-687-2383 [不定休]
 営／平日10:00～15:00(ラストオーダー14:30)
 土日祝10:00～15:30(ラストオーダー15:00)



西上商店

電話 088-687-0057 [不定休]
 営/10:00~16:00



若山商店

電話 088-687-0021 [年中無休]
 営／売店8:00～17:00 食事11:00～14:00



うづ乃家

電話 088-687-0150 [年中無休]
 営／売店8:00～18:00 食事9:00～16:30



大塚国際美術館

電話 088-687-3737
[月曜休館(祝日の場合は翌日)]
その他 特別休館有 8月は無休
営/9:30~17:00(入館券の販売~16:00)
入館料/一般3,300円 大学生2,200円 小中高生550円
※ミュージアムショップ、レストラン、カフェのみの
利用不可(要入館)



龜浦觀光港

● 鳴門観光汽船[P3]



➡ 至淡路・神戸

鳴門
わかめ

福池商店

電話 088-687-0758 [不定休]
営/8:00~17:00

鳴門金時芋
ソフト
クリーム

エスカヒル・鳴門

電話 088-687-0222 [年中無休]
 営/9:00~17:00(繁忙期8:00~)

当店のオススメ

わかめ麺
うどん

渦見茶屋

電話 088-687-0102 [年中無休]
営/9:00~17:00

徳島



電話 088-687-0508 [不定休]
 営/9:00~17:00 ※日によって変わります。

うどん屋 きのした

電話 088-687-0808 [年中無休]